

# 悠游たより 心游たより

第276号  
令和8年

4月

発行 新居浜生涯学習大学  
〒792-0023

新居浜市繁本町 8-65

電話・FAX(0897) 33-2991

メール n-daigaku@city.niihama.lg.jp



令和8年度開講にあたって

## 水平線の向こうの、まだ見ぬ世界へ



不確かな時代であるほど、人と人が出会い、学び合う場の価値は静かに浮かび上がってくるものかもしれません。四月になると、何かが始まるような気持ちになります。新年度の始まりというだけでなく、私たちの心の中にも、もう一度何かを始めてみようという小さな芽が出る季節なのかもしれませんね。

この数年、私たちは社会の大きな揺らぎの中にありました。新型コロナウイルスの流行は、人と人とが集い語り合うことの難しさをもたらす一方で、その大切さを改めて私たちに気づかせてくれました。また、世界では多くの紛争や不安定な国際情勢が続き、先の見通しにくい時代を私たちは生きています。

こうした時代の中では、立場や考え方の違いが強く意識されがちで、ときに社会の中に見えない分断が生まれることがあります。それだからこそ、お互いの経験に耳を傾け、言葉を交わしながら理解を深めていく場の大切さは、これまで以上に大きくなっているように感じます。

私たちの生涯学習大学は今年で35年目を迎えます。振り返れば、多くの人々がこの場を訪れ、学び、語り合い、それぞれの人生の一頁をここに重ねてきました。35年という時間は、多くの方々の思いや関わりが一つの川の流れのようにつながりながら積み重ねられてきたものだと思うのです。

私たちは「学ぶ」と聞くと学校をイメージしてしまい、知識を増やすことを思い浮かべがちです。でも、私たちの学びの場ではそれだけではない物語が生まれています。語り合いの中で好奇心が芽生え、仲間との関係の中で学びが広がっていく。そうした小さな積み重ねが、私たちの生き方を少しずつ変えてきたのではないのでしょうか。

人生にはいくつもの季節があります。若い頃には見えなかった景色が、歳月を重ねた今だからこそ見えてくることがあります。皆さんがそれぞれの歩みの中で重ねてこられた学びの時間は、きっと次の歩みへとつながっていくことでしょう。私たち一人ひとりの学びは、小さな雨粒の一滴のようなものかもしれません。しかし、その一滴一滴が集まり、やがて大きな流れとなって未来へと続いていくのだと思います。この「悠游」の名前の由来はまさにこの思いに重なります。

私は時折、『生涯学習』って何だろうと考えることがあります。今、思うのは、『大海原の遠くに広がる水平線のようなもの』です。水平線の先にはきっとまだ見ぬ世界が広がっていると信じて期待し、歩みを進めるたびに、少しずつ見える世界が広がっていく、そんな希望に満ちた営みだと思うのです。ちなみに水平線までの距離は4～5km程度だということを最近教えてもらいました。

目の前にある水平線を目指し、さあ、皆さん一緒に新しい学びの世界へ旅立ちましょう。

今年もどうかよろしくお願ひいたします。

(文責 関)



## 「うれしさに秋百年 生きたいな 極堂」

No.57

私の生涯学習

合田 正仁

私は65歳で会社勤めを終え、それ以後日本文学の講座を受けてきました。自分には俳人の柳原極堂先生(正岡子規と同期で子規を顕彰)と3日間自宅で共に無花果を食べた思い出があったからです。12歳の秋でした。

令和7年度の最終講座で愛媛大学の青木亮人教授の「新居浜出身の俳人、本田三嶺子と品川鈴子の俳句人生について」を受講しました。子規庵滞在の極堂との記念写真に本田三嶺子氏と父一系(極堂名付け親、本名一慶)を見て大変驚きました。それは、三嶺子氏と父が新居浜への句碑開きの旅を祈願していた時の写真でした。

阿部里雪先生と青井氏が極堂先生をお供して昭和31年9月20日から二泊三日間合田一系宅(当時中須賀町昭和通り3丁目)へ泊まれた毎夜の俳句会を思い出しました。「分け往けば道はありけりすすき原」の除幕式が行われ自宅は沢山の人でした。

父は極堂先生を滝の宮公園へご案内し、一步足を刻んでいただき、「いつまでも忘れじ秋のこの旅を」の句を残しました。また本田宅では「手のひらにいただく春の光かな」の句碑開きをしました。

私の人生にはいろんな機会がありました。生涯には極堂先生をおもてなし出来た父一系とお料理作りに気を配った母千代の心が宿っていました。北中では久米浩先生にサッカーを美術の玉川先生には絵を習ったこと。西高では関浩二先生のお陰で昭和39年と東京オリンピック強化合宿に参加出来たこと。おかげで粘り強くなったかなと思います。「もてなしの善をつくして秋日和 極堂」

社会人となってからは正良叔父さん、義理父佐々木傳造二六焼き三代目と仲人の水田先生にお世話になり、また新居浜極堂鶏頭会員とし、句作し新聞俳句欄へ投稿しています。絵手紙では和田静子先生、戸田俊之先生、前田みどり先生のお陰でハガキや色紙描きで楽しんでいます。「秋晴れや友を杖とし新居の旅 極堂」

生涯学習では日本文学、人生百年、賢い生活者、かまぼこ板等々を学び、更に「何でもやろう！」から横山泰茂先生の書道サークルへと恥を知らず参加しています。家族みんな何時までも元気で文化センターへ参加し、先生とみんなに会って話すことが生きがいと思っています。「萩すすき一系千代子のすがたかな 極堂」





## 「私の生涯学習」



村上 富士

平成16年に新居浜を襲った台風水害で空き家にしていた主人の実家が床上と60cmの浸水被害を受けた。

当時、千葉に住んでいた私達夫婦は悩んで悩んで悩んだ末に「ふるさとを残したい」思いから2年後、42年振りにUターンして新居浜人になった。

親の介護の帰省や東京でのふるさとの集に参加していたので、少しは新居浜の移り変わりは知っているつもりだった。

でも、記憶と思い出だけ残る町は「いつ？なぜ？誰が？」ばかりで時の流れは語ってくれない。変わらないと思っていた高校山岳部でよく歩いた縦走路のすぐ下には山脈ハイウェイが走り、日浦の登山口は場所が変わっていた。ザックを膝に抱えて乗せてもらったカゴ電車は東平の小マンプで訪れる人々を待っていた。

空白の42年間、それ以前の新居浜もあまり知らない自分がいた。そんな時、文化センターに掲げる「生涯学習の町宣言」の文字に惹かれて押しかけた。それから毎年三月になると抽選洩れになる程の受講の申込をして、市のイベントにも参加してふるさと再発見にワクワクした。

今まで全国を転勤で移り住んだ町には、内容の充実したいくつもの講座がある学び舎には出会わなかった。

講師の方々は地元はえぬきのマニアックでしかも分かり易く教えてくださる。詳しい資料も頂けるし、どんな質問にもやさしく応じて下さる。学ぶ事が大変楽しくなった。知れば知る程、もっともっと知りたくなる。知ってながめる風景はより楽しい。地球からの送り物(四国山脈、別子銅山、中央構造線、岩石、動物、植物)古墳時代からの歴史。瀬戸内海が育んだ文化(祭り、グルメ、記憶に残る尾道航路、塩田風景)これらを覆い包みこんだ新居浜は他の市町村にはない、とっておきのお宝ふるさとだったと再発見した。Uターンして良かった！学べて幸せ！これからも、講師の先生方々、スタッフの皆様、よろしくお願ひ致します！！

※今でも交流のある東京ふるさと集いメンバー達(同窓会、愛媛県人会、新居浜クラブ)から、くり返し聞く声は、太鼓まつりに帰りたい！エビ天でスーパードライを飲みたい！日本酒党は幻のトリ貝、コウショウガレイの干物は一度肴にして飲んでみたかった！思い出の地は小学校の遠足で行ったエントツ山だと。





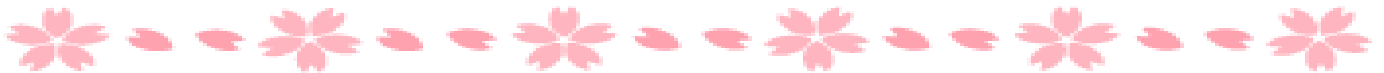
# 講座カレンダー



予定のご確認を...

※警報や災害・講師の都合などで日程を変更することがあります。

日	曜	講座名	回	テーマ	開始時間	会場
16	土	M 日本茶	1	新茶(日本茶)の おいしい淹れ方	10:00	生涯学習センター研修室
18	月	M 坐禅	1	坐禅入門	10:00	現地
20	水	賢い生活者になるための 講座	1	あなたの空き家課題、 一緒に解決しましょう	13:30	生涯学習センター研修室
21	木	けん玉遊び	1	けん玉に親しもう	10:00	生涯学習センター研修室
23	土	松山大学公開講座	1	性差別と ポジティブ・アクション	13:30	生涯学習センター研修室
26	火	M 苔玉	1	カエルちゃんの苔玉講座	13:30	生涯学習センター研修室
27	水	M 革細工	1	本革でペンケース	9:30	生涯学習センター研修室
28	木	科学博物館講座	1	国の天然記念物になった 銅山峰のツガザクラ群落	10:00	科学博物館第1研修室
29	金	M 豆腐	1	豆腐について楽しく学ぶ	13:30	現地
30	土	新居浜高専市民講座	1	光を利用して 暮らしをよくするナノ材料	9:30	新居浜高専視聴覚教室
		日本文学講座	1	平安期かなふみ再読	13:30	文セン別館視聴覚教室



新居浜市生涯学習大学事務局です。今年度もたくさんの方にお申込みいただきありがとうございました。

これから一年間、みんなと一緒に学び、成長していきましょう。

